

第2次千葉市文化芸術振興計画 1次評価シート（案）

基本施策名	基本施策5 文化芸術によって千葉の魅力を「活かす」 (1) 魅力ある資源の活用	
事業名	創造海岸いなげ展	
実施主体	指定管理者 (名称) 公益振興財団千葉市教育振興財団	
市との関わり	指定管理者	
市担当課	市民局生活文化スポーツ部文化振興課	(連絡先) 221-2411(内)90-2527

事業概要	開始年度	平成25年度	
	事業費	(予算) 市： 241 その他：	(決算) 市： 196 その他：
	内容	千葉市指定管理受託事業。千葉出身・在住の若手美術家のグループ展を開催する。毎年、様々なジャンルの期待の美術家を3名ずつ紹介している。千葉市内の中学校美術部展と同時開催。	
	目的	千葉にゆかりがあるが、市内で発表する機会の少ない若手芸術家の作品を、様々なジャンルにわたって展示することで、市民にその若手芸術家を知ってもらうとともに、この展示を通じて地域資源の魅力に触れてもらう。	
	目標	(数値) 来場者数800名	(昨年度) 737名
	ねらい	<p>(対象) 市内で活動している様々な所属・ジャンルの芸術団体や作家および市民</p> <p>(求める効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 千葉出身・在住の若手の美術家の多くは、主に都内の画廊や県外の芸術祭などで作品を発表している。そういった若手芸術家の千葉での活動・活躍の場を増やすために、この企画展を通じて千葉市内での若手芸術家に対する認知度を高めると同時に、千葉市から新しい文化芸術を発信すること。 地域資源の魅力や特徴を感じてもらえるような展示方法や作品を多くの市民に身近に感じてもらう。 これまで特定の利用者層(退職後に趣味で絵画制作などをされるサークルの方など)に限られていた当館で、市内では見ることの少ない若手の多様な表現に触れる機会をつくることで、他の年齢層・所属など多くの市民に興味を持ってもらうこと。 <p>(アプローチ方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民に多様な表現に触れてもらうため、また、若手芸術家同士刺激を受ける場として、様々なジャンル芸術家同士を組み合わせて展示した。 ギャラリートークを開催し、芸術家と来場者が作品やその活動について直接話すことのできる場を設けた。 普段、当施設を利用される年齢層や団体以外にも、多くの市民に千葉にゆかりのある芸術家の作品を鑑賞してもらえるよう、毎年、市内中学校の美術部合同展を同時期に開催している。また、今年は、千葉アートネットワーク・プロジェクト(WiCAN)との連携事業：コミュニティカフェ「kaiki」を会期中に実施し、幅広い層からの来場をねらった。 展示場所を市民ギャラリーだけでなく、地域資源である旧神谷伝兵衛稲毛別荘も活用した。 若手芸術家のうち2名(デイモン・ベイ氏、清水裕貴氏)の作品の中には、千葉の地域資源の魅力を文化的側面から表現した作品が含まれている。 	
	実績	<p>開催日程：平成29年8月8日(火)～20日(日) 9:00～17:15(初日12:00～、最終日～15:00)</p> <p>会場：千葉市民ギャラリー・いなげ</p> <p>出品作家：織戸ゆかり(美術家)、清水裕貴(写真家)、デイモン・ベイ(写真家)</p> <p>ギャラリートーク：8月20日(日) 14:00～15:00</p> <p>来場者：1,575名 ※うちギャラリートーク参加者：52名</p>	
	情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市政だより ■ HP ■ ポスター・チラシ ■ フェイスブック・ツイッター ■ その他(メディアでの掲載) 	

【評価指標】		4：妥当、3：ほぼ妥当、2：工夫により改善、1：見直し	
1 基本施策との適合	(1) 目的設定の妥当性	<input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 4	(評価の理由) 展示場所に旧神谷伝兵衛稲毛別荘を活用したり、展示を通じて、千葉にゆかりのある若手芸術家による地域資源の魅力や特徴を表現するような作品を発信することは、基本施策5(1)魅力ある資源の活用に沿っており妥当である。
	(2) 目的の達成度	<input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	(評価の理由) WiCANとの連携事業を会期中に開催したり、市内の新聞社やテレビ局などのメディアへの宣伝をしたことで、昨年度と比べると倍以上の来場者あった。また、アンケート結果からも、回答者の88%の方が「今回出品した作家を本展で初めて知った」と回答しており、千葉ゆかりの若手芸術家を知ってもらうという目的は概ね達成できたものの、作家や作品への理解促進については、ギャラリートーク実施以外の工夫も必要である。 また、アンケート結果から「作品を通じて田園風景の美しさを再認識した」などの意見が多く見受けられ、地域資源の魅力や特徴を展示方法や作品から感じ取ってもらうという目的は達成できた。
	(3) 波及	<input checked="" type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	(評価の理由) 本展を通じて、これまで12名の作家を紹介してきており、その内1名を除いて市内では未発表の作家であったことから、基本施策2(2)の芸術家の発掘・育成(新進芸術家への支援の充実)の考えに沿った事業ともいえる。また、ギャラリートーク開催は、基本施策1(2)の参加・体験活動の推進に繋がる。
		(評価に関連する数値等)	
		・平成28年度来場者数：737名→平成29年度来場者数：1575名 ・アンケート結果：出品作家の認知度：作家と知人7名、以前から知っている作家がいた3名、本展で初めて知った88名 ・アンケート記入者の属性 住所：市内57名、県内30名、都内7名、その他10名	
2 戦略的な視点・基本姿勢との適合	(1) 市民主体	<input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	(評価の理由) ・作品の鑑賞の助けとして、各作家の作品解説パネルの掲示、監視員の方との作品の情報共有、ギャラリートークの実施を行い、来場者が展示を楽しんでもらえるよう心掛けた。しかし、多くの来場者が主体となって作品を鑑賞できる展示内容には現状では至っていない。本展を通して日常でも美しさや面白さを見出すことに繋げるためには、より踏み込んだ切り口で作品を紹介するなどの改善が必要であると思われる。
	(2) 子ども・若者	<input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	(評価の理由) 美術部展と同時開催することで中学生の来場が多かった点はよかった。参加校の中学生に聞き取りをしたところ「普段空の写真を撮影しているので、(展示)作品が参考になった」という意見や、顧問の先生からは「まだ拙い子供たちにとって、表現の刺激になったと思う」という意見があり、これからの文化や芸術を担う子供たちへの刺激に多少は繋がったと思われる。ただし、出品作家との交流の機会として設けたギャラリートークについては中学生の参加はなかったので、関連イベントの内容の改善を検討する必要もある。
	(3) 領域の広がり	<input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	(評価の理由) 当館の展示室だけでなく、隣接する文化財の旧神谷伝兵衛稲毛別荘内でも作品を展示することで、普段とは異なる環境での作品鑑賞の機会を設けた。アンケート回答には、「静かな中でゆっくり鑑賞。この場所だけ他のところと異空間のようで良かった。」などの感想が寄せられていたことから、作品を取り囲む環境も含め芸術体験の機会を提供できたと考える。また、「中学校美術部展」を同時開催することで、アンケートでは「中学生の作品も見ることができ一石二鳥だった」という意見も寄せられた。また、会期中にはWiCANとの連携企画として「カフェkaiki」を開催したことで、展覧会来場者からは、「鑑賞後にゆっくり話せる場があり、大変よかった。」という声も聞いた。来場した目的以外の文化領域に触れる機会を提供できたと考える。
		(評価に関連する数値等)	
		アンケート回答結果：「作者のプロフィールが分かりやすく説明されていてよかった。」 聞き取り結果：「(ギャラリートークについて)作家本人から作品の話を直接聞けるのはオーディオの解説などとはまた違いよかった。」	
		聞き取り調査：「ワークショップのような形式の方が中学生は参加しやすいと思う。」(美術部展参加校の顧問の先生)	

3	事業のねらい	(1) 設定の妥当性	<p>(評価の理由)</p> <p>千葉出身・在住の若手美術家の多くは主に都内の画廊や県外の芸術祭などで作品を発表している現状がある。</p> <p>□ 1 □ 2 □ 3 ■ 4</p> <p>そのような中で、地域資源である旧神谷伝兵衛稲毛別荘に千葉ゆかりの若手作家による様々なジャンルの作品を展示したり、作家や作品への理解を深めるためにギャラリートークを実施するなど、千葉ゆかりの作家の活動の場の提供や活躍の機会を創出することで市内での認知度を高めるといふ本事業のねらいは、関連付けられる基本施策5(1)に沿っており、同時に基本施策1(2)や基本施策2(2)にも効果をひろげていることを鑑みても、妥当と言える。</p>
		(2) アプローチ	<p>(評価の理由)</p> <p>千葉の地域資源の魅力を表現した作品展示や、旧神谷伝兵衛稲毛別荘を展示場所として活用、また、WiCANとの連携事業を会期中に開催した結果、多くの方々に地域資源の魅力を提示できた。(来場者数は昨年度の倍)</p> <p>□ 1 ■ 2 □ 3 □ 4</p> <p>また、特定のジャンルの作品を目的に来場した方が、他のジャンルの作品に関心を持ったとの意見もあったことから、多様な表現に触れる機会の創出に寄与できた。</p> <p>しかし、千葉市中学校美術部展との同時開催により、若年層の来場を見込んでいたものの、今回のアンケート回答者の55%以上が60代の方であり、結果的に若年層の方の来場が少なかった。ギャラリートーク後に実施した聞き取りの結果、美術部展参加校の美術部の顧問の先生より「中学生にとっては、ギャラリートークで直接作家と話すことはハードルが高いため、ワークショップなどを通じて作家の表現に触れられたらよいかもしれない」という意見があった。今後、若年層に興味を持ってもらうためのアプローチ方法に関しては検討が必要である。</p>
		(評価に関連する数値等)	<p>・平成29年度アンケート記入者の属性①年齢：～10代8名、20代4名、30代3名、40代15名、50代17名、60代19名、70代39名</p> <p>・聞き取り調査結果 参照</p>
4	市民との関わり	(1) 満足度	<p>(評価の理由)</p> <p>アンケートの結果、多くの方にこれから期待される千葉ゆかりの若手芸術家を知ってもらうことができた。また、地域資源である旧神谷伝兵衛稲毛別荘を展示場所として活用したことについては、「作品も建物もとても素敵で来て良かった」「とても静かで芸術鑑賞には良い場所だ」などの意見が多く見受けられ、地域資源の魅力を知っていただく良い機会となった。同じく表現に関わっている来場者にとっては、自分とは異なるジャンルの新進の表現から刺激を受けたといった意見もあった。今後は他の年齢層・所属などより多くの市民に興味を持ってもらい足を運んでもらえるような工夫が必要。</p>
		(2) 周知度	<p>(評価の理由)</p> <p>メディアへの積極的な案内を行った結果、今年度は1575名と昨年度の2倍以上の来場があり、さらにアンケート調査結果では57%が当館を初めて訪れた方であったことから、作家と施設を知っていただく機会に繋げることができた。アンケート集計結果からは62%がテレビニュースで本展を知ったことがわかり、その多くが60代以上の世代であったことから、今後の文化を担っていく若い世代の来場に繋がる効果的な宣伝方法(SNSの活用など)をとっていく必要があると考える。</p>
5	効果	(1) 地域活性化	<p>(評価の理由)</p> <p>□ 1 ■ 2 □ 3 □ 4</p> <p>展覧会を開催して終わりではなく、本展で紹介した作家が開催後も市内で活躍できるような機会に繋げる工夫が必要ではないかと考える。また、本展に興味を持ってくださる方が、より深く関わられる仕組みづくりも必要ではないか。</p>
		(2) 費用対効果	<p>(評価の理由)</p> <p>□ 1 □ 2 ■ 3 □ 4</p> <p>アンケートの集計結果からは「感動した。無料なんて信じられない。」との感想もあり、市民の満足度は高かった。予算はすべて市からの負担金のため、今後は助成や協賛金を募り、展覧会関連グッズの販売なども検討に入れる必要があるかもしれない。</p>
		(評価に関連する数値等)	<p>アンケート回答結果「展覧会を何で知ったか?」：チラシ等3名、新聞1名、テレビ68名、学校で4名、フリーペーパー1名、市政だより2名、当館HP2名、SNS4名、知人からの案内8名、当館に来て11名、その他</p>